

2009年から症例検討会や研修会、懇談会などを定期的に企画して活動を続けて参りました。

今回表彰を頂いた論文は、「北多摩南部圏域の多職種連携促進における在宅医療・緩和ケアカンファレンスの意義について」でした。これは、会の参加者の協力を得て、旭川医科大学の阿部先生らが開発された「医療介護福祉の地域連携尺度」を一部本地域に合わせて改変したものを用いて、本会の取組みを客観的に評価し、地域での多職種・多事業所による研修会の参加頻度別に地域連携の特徴を捉えることを試みた論文です。今回の研究により、地域での多職種連携推進には、その地域で開催されている研修会へ年2回以上の参加が推奨されると考えられましたが、これからも地域連携の促進のために日々、精進して参りたいと考えております。これからもご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

第17回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 岩手県立久慈病院 遠野千尋



第17回日本医療マネジメント学会
学術総会会長賞表彰式

この度は、荣誉ある第17回学術総会会長賞を頂き、山根哲郎学術総会会長、宮崎久義理事長及び関係者の皆様には心から感謝いたします。本文の内容通り、医師招

聘の努力をなさったのは共著者の遠藤秀彦先生と岩手県医療局医師支援推進室の職員であり、実際に釜石で地域住民への診療機能の向上に寄与したのは4人のシニアドクターの先生方です。その努力と成果を目の当たりにし、これを世の人に伝えたいと思い、総会で発表の場を頂きました。また、投稿に関しては査読の先生に稚拙な文章を丁寧にも何度もご指導頂きました。大変感謝いたします。その結果、私があのような華々しい壇上に立たせていただいたことは片腹痛しの心境でしたが、厚かましくも列席させて頂きました。

ただ、論文内容は震災がきっかけの出来事で、現在も東北には5年経った今でも復興途中でつらい状況が続く被災者も多く、さらに受賞の学会期間中は熊本大分地震の真最中でこちらでも苦しんでいる人が多いなか、晴れ晴れしい気持ちにはなれませんでした。東北でも九州でもいつか日本中が心から笑える日が来ることを願ってやみません。

開催報告

分科会

2015年度クリティカルパス実践セミナー-in仙台を開催して 国立病院機構仙台医療センター呼吸器外科医長 羽隅透



会場風景

2016年2月27-28日、全国から19名の参加者(看護師、理学療法士、診療情報管理士等)を迎えクリティカルパス実践セミナーを開催

しました。テーマは「これからの地域医療とクリティカルパス」でした。急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、急性期病院では在院日数のさらなる短縮と地域機関との連携強化がより求められてきます。講演は野村一俊先生(朝日野総合病院病院長)に「今後の地域医療とクリティカルパス」をお話しいただきました。在宅あるいは地域包括ケア病棟への転院を促進するには、多職種が連携した退院支援が必要で、回復期病院へのシームレスな連携クリティカルパスが有用であることを学びました。そして勝尾信一先生(福井総合病院副院長)に「アウトカムとバリエーション」をお話しいただきました。難解な用語を分かり易く解説していただき、さらにExcel表を用いた視覚で考える解析方法を学びました。グループワークは「退院支援クリティカルパスの作成」と「アウトカム評価とバリエーション解析」を行いました。グループは多職種で構成されていたこともあり、色々な課題が持ち上がり、活発な討議と発表が行われました。クリティカルパスは多職種間で作成、運用、改善されるものであると再認識するセミナーでありました。

支部学術集会開催報告

第16回長崎支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構長崎医療センター
副院長 藤岡 ひかる



会場風景

2016年2月6日(土)、長崎県大村市の“シーハットおおむら”において、日本医療マネジメント学会第16回長崎支部学術